

令和3年度 国語科・算数科の取組

国語科

【国語科における児童の実態】

- ・漢字の定着率の個人差が大きい。おおよそ定着している児童も文章中での活用ができない。
- ・語彙が少なく、自分が知っている簡単な言葉で片付けてしまう。
- ・作文や感想文への苦手意識がある。
- ・読書への意欲は高い。

【指導の重点】

- 言語活動を通して指導事項を指導する単元展開を行う。
- 系統性を明らかにした指導と評価の計画の作成・活用・検証をする。

【具体的な取組】

- ① 読書活動の一層の充実を図る。
 - ・全校朝読書（月曜日、業前15分間）の実施。
 - ・国語教材との関連図書を紹介、奨励する。
 - ・図書相談員と連携し、低学年を中心に読み聞かせを継続して行う。
 - ・中高学年は、朝読書の時間を利用し、外部ボランティアを招いて計画的な読み聞かせを実施する。
- ② スピーチの段階的な指導を行う。（スピーチの内容や原稿の工夫）
- ③ 書くことについて段階的、継続的な指導を行う。
 - ・書く意欲をもたせる題材を設定する。
 - ・書き慣れるため、継続的に日記等に取り組みせる。
 - ・視写をすることで原稿用紙の使い方、表記の仕方を学ばせる。
- ④ 漢字テストを活用する。
 - ・正答率が低い児童へは、繰り返し習熟させ、漢字の確実な定着を図る。
- ⑤ 国語辞典、漢字辞典を常用する。

算数科

【算数科における児童の実態】

- ・かけ算九九が確実に習得できていない児童が見られる。
- ・計算力の個人差が大きい。
- ・全体的に図形について、苦手意識をもつ児童が多い。
- ・既習の学習内容から課題を解決しようとする意欲はある。
- ・自分の考えを友達に伝えることに苦手意識をもつ児童が多い。

【指導の重点】

- 児童の実態に即した指導と評価の改善・充実を図る。
- 数学的活動の充実と、算数を学ぶことの楽しさや意義を実感できる学習を展開する。

【具体的な取組】

- ① 低・中学年はT T、高学年はT Tと少人数指導を導入し、学年の実態や単元に応じて、より効果的な形態で学習に取り組む。
- ② デジタル教科書等I C Tを効果的、積極的に活用する。
- ③ 多様な考え方や表現に表れる数理的な処理のよさを味わうことができるように、主体的な問題解決学習を重視する。
- ④ 言語活動の充実を図り、考えを発表したり、友達の考えを聞いて質問したりするなど対話的な学びが深められるようにする。
- ⑤ 基礎的基本的な学習内容の定着プリントを活用する。
- ⑥ 業前の計算力向上の時間「ぐんぐんタイム」を設定する。
 - ・四則をはじめとした基礎的な計算技能の定着を図る。
 - ・計算の速さや正確性を高め、基礎的な計算力を高める。
- ⑦ 宗小寺子屋を実施し、基礎的・基本的な計算の定着を図る。（夏季休業日、個人面談期間）